

**特集** 改革に果敢に挑む道民児連をサポートする  
～民生委員児童委員協議会のあり方に関する検討委員会レポート～

インフォメーション

令和4年度事業計画……………	6
道民児連事務局新体制……………	6
令和4年度事業日程表……………	7
令和4年度収支予算……………	7
おすすめ書籍「ブックレビュー」……………	8
エッセイ:ひとをつなぐ	
「◎幸せづくりのパートナー」……………	8





# 改革に果敢に挑む道民児連をサポートする

## 民生委員児童委員協議会のあり方に関する検討委員会レポート

委員長 鳥居一頼

令和3年5月11日、民生委員児童委員協議会のあり方に関する検討委員会委員の委嘱が行われました。委員には前年度設置された

「民生委員児童委員研修のあり方に関する検討委員会」のメンバー7名がスライド。今後2か年に渡って引き続き協議を重ねていくことになりました。

第1回委員会で、富良野市民児協松田尚美会長、(二社)Wellbe Design篠原辰二理事長、登別市社協藤江紀彦常務理事、旭川市民児連佐藤史教事務局長、そして道民児連菅蒲信也常務理事氏らの推薦を受けて、委員長鳥居一頼、副委員長に道民児連理事馬淵一オホーツク地区支部長が選出されました。

### ■検討委員会の諮問事項

この委員会は「支え合う民児協づくり」を目標に、民児協の運営のあり方の研究や改善のために、道民児連より次に記す7つの事項に関して諮問されています。

#### 【諮問を受けた事項】

- ① 支え合う民児協づくりを目的とした民児協運営のあり方の研究および提案に関する事項
- ② 民生委員児童委員の研修のあり方の研究および提案に

#### 関する事項

- ③ 民生委員児童委員のなり手不足の課題に関する研究および提案に関する事項
- ④ 第3次北海道民生委員児童委員活動指針の進捗状況の評価に関する事項
- ⑤ 民生委員児童委員引継ぎマニュアルの作成に関する事項
- ⑥ 北海道民生委員児童委員災害時活動指針の改訂に関する事項
- ⑦ 前各号に掲げるもののほか、目的を達成するために必要な事項

これらのうち、とりわけ②民生委員児童委員の研修のあり方の研究および提案に関する事項

は、先の検討委員会から引き継がれた重要事項です。そして、これに連動する③以降の事項は、今後の民生委員児童委員の活動を方向付ける重要な検討事案となっております。

これらを検討するために、市町村単位民児協を取り巻く課題について抽出し、その対策について協議を深めて、答申として具体的な形にとりまとめる必要があります。

### ■コロナに翻弄され続けた会議と研修

昨年度に答申した研修事業の新たな展望を持った取り組みについて、単位民児協の役員に説明する機会は2度の中止を余儀なくされました。6月2日に予定された全道会長副会長研究協議会は、緊急事態宣言が同20日まで延長されたことに伴い8月に延期されました。しかし、東京五輪後9月いっぱいまでまん延防止等重点措置(まん延防止法)が発令されて中止となるばかり



鳥居委員長

か、その期間に予定していた多くの研修事業が延期を余儀なくされました。こうした状況の下、検討委員会はオンラインで2度実施しました。画面越しの会議は、それまで馴染んだ感覚と異なるものでしたが、一方で重要な審議内容をひとつでもクリアすることに集中した場ともなり



ました。

9月17日に昨年の検討委員会の提言を受けて初めて取り組んだ「災害に備える民生委員児童委員活動シンポジウム」(3年に一度開催予定)もまた、集合研修を初めてオンラインに切り替えて実施しました。基調講演の他、道内の近年の台風や地震災害から学ぶ教訓をテーマに、篠原辰二さんがコーディネーターを務めて、胆振東部地震を経験した委員を含めた3人の実践者から話を聞くシンポジウムが行われました。これは災害時の活動指針の改訂にも関連する事業でもあります。市町村事務局も含め193名の方が参加しました。市町村のそれぞれの会場で映し出される画面を通じたシンポジウムでしたが、参加者の91.7%が有意義な研修だったと高く評価されました。

同時期、道民児連ではコロナ禍で集合型の研修を開催できない事態が続く中、ICT(※)を活用したオンライン研修形態の導入の可能性を模索するために「ICTを活用した研修実施に関するアンケート調査」を実施しました。結果は、実施経験のある

民児協は2割程度、その環境はまだ発展途上にある状況でした。しかし、未実施の民児協もオンライン環境が整備されれば実施する可能性を示唆していました。

このことから、今後の研修スタイルの多様性を担保する上でも、オンラインに対応できる情報機器の環境を整備することによる効果も期待できるのではないかと考察しています。環境整備を求める民児協すべてに助成することは困難としても、この調査で次年度の助成事業として検討するに値する十分な資料が整ったこととなります。調査結果は3月に開催された第4回検討委員会でも答申事案として協議されました。

こうした研修スタイルの改革は、新任研修の運営にも直接連動するものです。モデル事業はすでに10月に盛り込んでおり、裏付けともなる全道調査を先んじて実施したことは常に先を見通した道民児連の堅実な取り組みの反映といっても過言ではありません。研修事業間の連動性だけでなく、民児協独自の研修事業の見直しや仕組み、さらには運営のあり方まで俯瞰的に

捉える視点が検討委員会にも求められてきた1年でした。

その後、オミクロン株による第6波が襲った1月初旬まで、滞っていた研修事業の推進に精力的に取り組みました。11月には、対面で第3回の検討委員会を開催しています。

しかし、1月下旬からのまん延防止法は、全道一円に広がり、感染者は驚異的な増加の一方で高止まりが続き、対策の術もなく、再三延長されて3月21日を迎えるに至りました。その渦中、11月には、対面で第3回の検討委員会を開催しています。またモデル事業では、対象地区の民児協の皆様のあたたかいご理解とご協力を得て、貴重な成果をあげることができ、さらにそこを起点にして新しいテスト事業へと進展させることができました。

1月には旭川市で第4回検討委員会を開催。答申内容を協議し、次年度の足がかりを得るこ



佐川会長

とができました。また会議後は、試行的な研修事業への参加とふり返りにより、次年度の方向性と可能性を確認できた貴重な一日ともなりました。感染症拡大という特殊な世相の中でも臨機応変に対処して事業を推進できたことは、道民児連の改革への意志とやる気を実感した場ともなりました。もちろん、専門研修や初任者研修などの地域開催の事業は中止のやむなきに至ったことで、検証の手立てを失ったことは大きな痛手でもありました。

令和3年度は、コロナに翻弄され続けた1年でもありました。しかし、そうした中にあつても委員と事務局の揺るぎない盤石な体制により、会議で論議する前に、常に情報の入出力を行い当面の課題や事業の目的等を確認し共有することができました。多忙な委員の方々には抽出された課題を形にまとめる時間を割いて頂き、答申にこぎ着けたことに感謝しかありません。

■ **モデル事業で攻勢に転じる**  
従来の研修の多くは、コロナによってダウンしました。

そこで、道民児連はアンケート調査やモデル事業の推進にシフトして、精力的に企画を実践しました。

次ページの図1は推進中の人材育成事業について示されています。このうち、今年度の中心となった事業が「支え合う民児協づくり研修」であることから、年度当初活性化事業テーマ特化型事業指定を申請のあった旭川市東部東光地区(ペア制度)鳥居担当、忠和地区と末広東地区(災害)篠原担当)の3地区を2か年指定して、地区民児協とともに実践検証しています。3地区とも意欲的に取り組んで頂き年度末には成果を報告できるかと楽しみにしています。

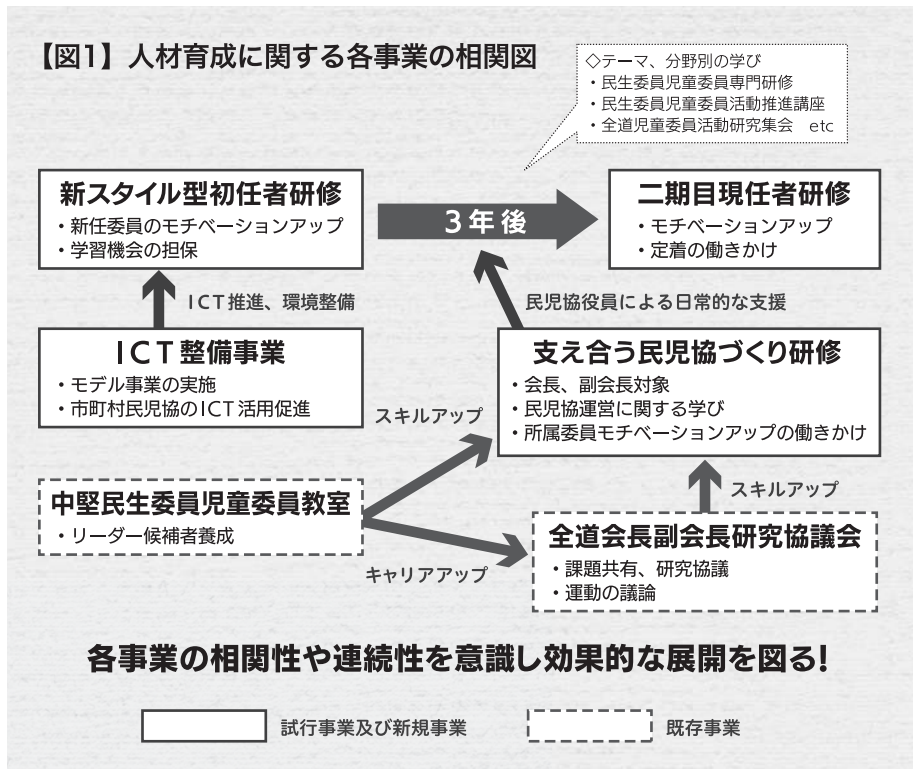
「新スタイル型初任者研修」は、旭川市民児連の協力を得て、「民生委員児童委員の歴史と基本的

※ICTとは

Information and Communication Technology (インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー)の略で、意味は「情報通信技術」。ITは、ハード・ソフト・アプリケーション・OA機器等の全体を意味するもので、ICTは「IT技術を使ってどのように人々の暮らしを豊かにしていくか」という活用方法のこと。



【図1】人材育成に関する各事業の相関図



な役割」「活動記録の記入」についてWEB配信を行ったりDVDの映像を閲覧したりして、10月20日に集合研修を行いました。その上で、事前に疑問点など質問事項を道民児連に提出して、当日の集合研修では、自主学習で寄せられた質問等の解説や仲間と共に学び合うワークショップ

「二期目現任研修」は、10月に留萌管内羽幌町と旭川市でモデル研修を実施しました。参加された方々の活動へのモチベ

に臨むプログラムを試行的に実施しました。ICT整備事業とも連動させながら今後推進を図るべき事業として答申の一つに上げています。

「二期目現任研修」は、10月に留萌管内羽幌町と旭川市でモデル研修を実施しました。参加された方々の活動へのモチベ

ションを次の改選にいかにつないでいくのが、地元民児協と取り組まなければならない課題ともなりました。併せて、1期目の方が3年後活動をふり返り、2期目への継続を前向きに考えていただく契機としてその重要性を確認することもできました。さらに、この研修を参観された旭川市内の役員さんから、役員こそこうした研修を受けなければならぬという建設的な声が上がりました。そこで会長・副会長、次期役員を対象にした「支え合う民児協づくり研修」を旭川市民児連事務局と共に企画・運営しました。まん延防止法の延長により3月の開催が危ぶまれましたが、試験開催に切り替えることで、あくまでも自己判断による希望者のみを対象に実施しました。広い会場でもあったことから、グループワークも展開できたことは幸いでした。研修では6月に発刊した「ワークショップのすすめ」というテキストも活用しながら、定例会のあり方や、内容と展開の見直しについて学習。参加者はもちろん参観した検討委員からも高い評価を得ることができま

した。この成果は、次年度の全道会長副会長研究協議会のプログラムに組み込むことも可能であり、管内での役員研修や中堅研修での有効性も指摘されました。

■道民児連の変革期に立ち会う

市町村では、12月の改選に向けて厳しい人選がすでに始まっています。なり手不足の問題に端を発して、研修のあり方から単位民児協の運営のあり方に及ぶ実態の把握と分析、新たな展望を模索する日々はこれからも続きます。検討委員会としても、道民児連と一枚岩になつて次年度もしっかりと取り組んでいく所存です。人が育つということは、組織そのものがその人の育つ力を引き出すことができるかどうかです。これは単位民児協の足腰を強くするために、欠くことの出来ない組織力です。その力を「支え合う力」として見える化することが、検討委員会に課せられた大きな課題でもあります。それは「人は納得しなければ動かない。信頼の糸を結ばねば心通わない」組織であるかど

うかを確かめることから始まります。

道民児連の菫浦常務は、「道民児連そのものの変革が求められている。この流れを妨げてはならない」と語り、より良く変わることへの期待を滲ませています。次年度は、道民児連事務局も新職員体制となり、新たな挑戦がスタートします。

そのためにも第一線で活躍される方々への敬意と賞賛を決して忘れず、その資質と組織力を高めていくことで、地域の福祉力の向上に貢献できますよう、検討委員会も微力ながら労を惜しまず、道民児連と共に課題に向き合い邁進することをお約束いたします。



佐川会長とあり方検討委員会のメンバー



道民児連研修用資料・DVD等のご紹介

〔研修用資料〕



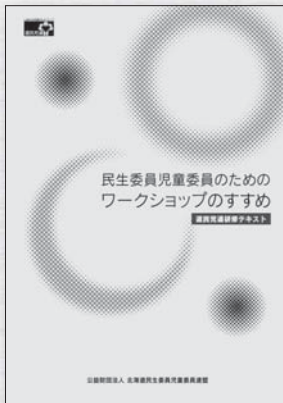
民生委員児童委員のための住民支え合いマップづくり入門 (改訂版)

- ・配布対象 全委員
- ・発行時期 令和3年3月
- ・新たな住民支え合いマップの取り組みについて検討を行い、改訂版を発行



民生委員児童委員研修企画のてびき

- ・配布対象 単位民児協
- ・発行時期 令和3年3月
- ・市町村民児協等における計画的、意図的な民生委員研修の促進を図ることを目的に作成



民生委員児童委員のためのワークショップのすすめ

- ・配布対象 単位民児協
- ・発行時期 令和3年3月
- ・研修会のみならず、定例会での課題協議や事例検討に活用できるワークショップの手法を市町村民児協において独自で実施していただくことをねらいとして作成

\*地域支援調査(住民支え合いマップ)事業研修用DVDの導入編「ご近所パワーで支え合い起こし」、実践編「支え合いマップづくり入門」、道民児連研修ビデオシリーズvol.2「民生委員児童委員の歴史と基本的役割」、vol.3「活動記録の記入について」の動画は、道民児連ホームページ研修動画ページからご視聴いただけます。

- ・ログインID domin
- ・パスワード 2181

〔研修用DVD〕



地域支援調査(住民支え合いマップ)事業研修用DVD

- ・配布対象 単位民児協
- ・発行時期 平成30年8月
- ・導入編「ご近所パワーで支え合い起こし」、実践編「支え合いマップづくり入門」



道民児連研修ビデオシリーズ vol.1 「子どもを育む地域づくりと福祉教育」

- ・配布対象 市町村民児協
- ・発行時期 令和2年11月
- ・令和2年度第21回民生委員児童委員活動推進講座の講演内容



道民児連研修ビデオシリーズ vol.2 「民生委員児童委員の歴史と基本的役割」、vol.3「活動記録の記入について」

- ・配布対象 市町村民児協
- ・発行時期 令和3年3月
- ・初任者向け研修プログラム



道民児連研修ビデオシリーズ vol.4「道民児連明日を拓く!新たな研修スタイルの提案」、vol.5「コロナ禍における民児協活動」

- ・配布対象 市町村民児協
- ・発行時期 令和3年9月
- ・令和3年度全道民児協会長・副会長研究協議会の基調報告、事例発表内容



道民児連研修ビデオシリーズ vol.6「ぬくもりのある地域を築く」、vol.7「子育て・子育て支援を考える」

- ・配布対象 市町村民児協
- ・発行時期 令和3年9月
- ・令和3年度全道児童委員活動研究集会の基調講演、講演内容



道民児連研修ビデオシリーズ vol.8「人権を尊重した民生委員児童委員活動」

- ・配布対象 市町村民児協
- ・発行時期 令和3年11月
- ・令和3年度第22回民生委員児童委員活動推進講座の講演内容



道民児連研修ビデオシリーズ vol.9「災害に備える民生委員児童委員活動シンポジウム」

- ・配布対象 市町村民児協
- ・発行時期 令和4年1月
- ・災害に備える民生委員児童委員活動シンポジウムの基調講演、シンポジウム内容







# FACTFULNESS (ファクトフルネス) 10の思い込みを乗り越え、 データを基に世界を正しく見る習慣



ハンス・ロスリング 著  
日経BP社  
1,980円(税込)

## ■ 内容

「ファクトフルネス」とは、データや事実にもとづき、世界を読み解く習慣のこと。人間は誰しも主観で世界を構築しています。時に主観は強いバイアス(歪み)として、事実の解釈を濁らせてしまいます。私たちはそうして自分たちに都合がよいフィルターをかけて、事実を真実にすり替えて世界を眺めています。

思い込みを排除し、客観的エビデンス(＝証拠)が示す事実を受け入れること。これは簡単なようでいて、その実強く意識しなければ難しいものです。世界をできるだけ正しく俯瞰し理解するためには、ファクトフルネスを習慣として身に着け、自身のスキルとするためのトレーニングが必要です。

本書で著者が展開していることは、万人に共通の常識として捉えられているさまざまな事象を、データを用いて検証すること。それにより、私たちの常識がいかに不正確で不安定なものかをあぶり出し、思い込みによって世界を眺めることの危険を提示します。

折しも発生したロシアによるウクライナへの軍事侵攻では、情報操作によるプロパガンダが人々の意識に大きく関与することが改めて浮き彫りにされました。ファクトフルネスは情報リテラシーと並んで、私たちが正しく判断し、いまより一歩でも未来をよくするために不可欠な姿勢なのです。

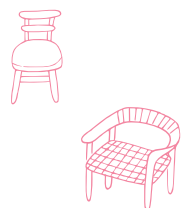
著者の余談がやや冗長なのが気になるところ。でも、最後の一言は名言です。「世界をよくし続けるために私たちに何ができるか、事実に基づいて世界を見ることだ」。持続可能な世界に一歩でも近づくために、読んでおきたい一冊。

## エッセイ



### ⑥ 幸せづくりのパートナー

鳥居 一頼



2月末ロシアが突如ウクライナに侵攻した独立国家を暴力で蹂躪しようと暴挙に出たウクライナの無垢なる命が危険に晒された亡骸を抱く母の慟哭は世界中を震撼させた戦火で母を失った6歳の少女はひとり脱水死した悲報が流れるたびに戦争を知る者たちはきつく手を握る

お互い様のつながりで平穏無事な暮らしを創りたい

日々民生委員児童委員は努力する

切ない暮らしに涙することに寄り添い心を配った

少しでも暮らしが楽になることに心を砕いた

心を開いた

日々民生委員児童委員は学び続けた戦争体験をした先輩たちの背中を見て学んだ

身を粉にして動く先輩たちの真意を見て打たれた心から平和を願う先輩たちの行動を見て真似た

日々民生委員児童委員は暮らしを彩る

幸せや苦労を分かち合う普段の暮らしを創りたい

創りたい

幸せな社会をつくる一人として為すべきことを知った

幸せづくりのパートナーとして生きることを決めた

## 【筆者紹介】

鳥居 一頼 氏(とりのい かずよし) 登別市出身。71歳。北海道教育大卒。道内で18年間教壇に立つ。道教委、道庁などに勤務後、室蘭・登別で小学校校長歴任。その後関西の私立大学の教授。現在、登別市きずな大使として地域福祉実践計画推進を支援する傍ら、各地で地域福祉アドバイザーとしても活動している。また、道民児連が設置した「民生委員児童委員協議会のあり方に関する検討委員会」の委員長をお務めいただいている。主な著書に「子どもと学ぶボランティア」(こっちゃんのボランティア授業論)、「大阪ボランティア協会刊」。「福祉教育のキーワードと指導のポイント」(大阪ボランティア協会)、「子ども・共育・ボランティア」(長崎県ボランティア協会など)。